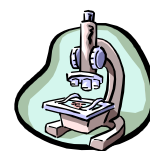


～ココアの新しい研究結果発表!!～

ココアのインフルエンザウイルス感染阻害効果確認

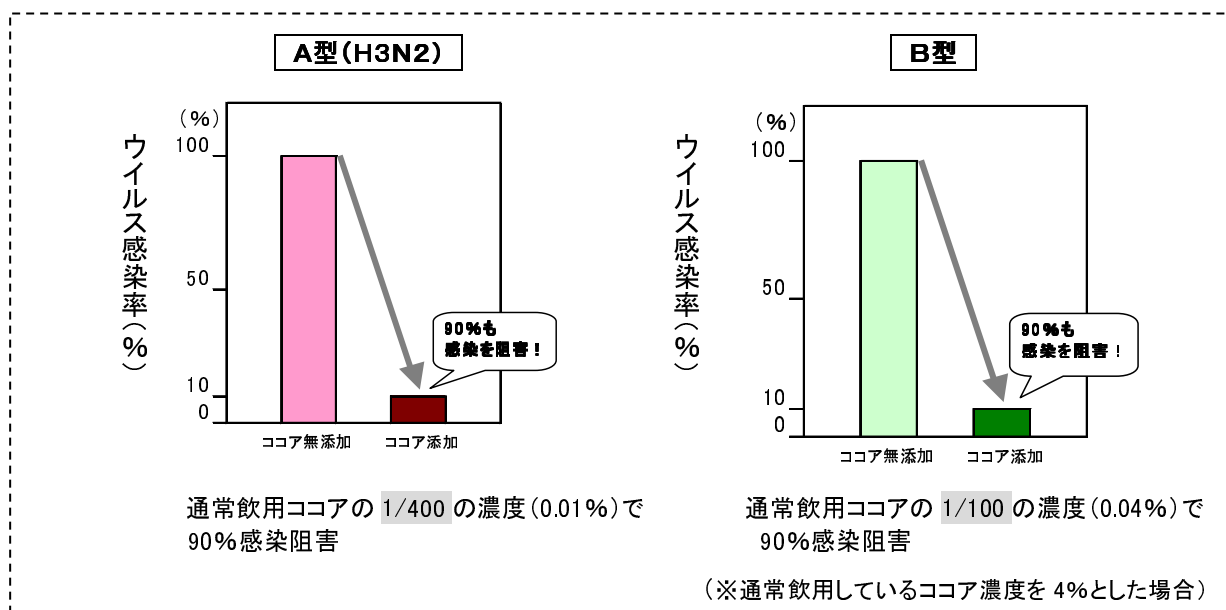


試験管内の実験において、A型・B型で90%感染阻害

木枯らしの季節となりました。今冬もインフルエンザが猛威を振ると予測される中、様々な予防対策が報道されています。

森永製菓株式会社(東京都港区芝、社長・森永剛太)は、ココアシェアNo.1企業として、またココアのパイオニアとして、様々なココアの機能性について研究してまいりましたが、このたび試験管内の実験においてココアが“インフルエンザウイルス”の感染を阻害する効果があることを確認いたしましたので、ご報告いたします。

弊社で長年ココアの様々な機能性を研究してきた中で、ココアが下痢原性細菌(黄色ブドウ球菌、O-157、サルモネラ菌、腸炎ピブリオ菌など計20菌種25菌株)や、胃・十二指腸潰瘍の原因である“ピロリ菌”など、細菌に対して殺菌効果をもっていることが確認されています。そこで、ウイルスに対しても効果があるのではと推測し、インフルエンザウイルスの研究では実績のある大阪府立公衆衛生研究所の研究により“インフルエンザウイルス”に対するココアの効果を調べた結果、下記のように有効な結果が得られました。



今後はさらにそのメカニズムを探る研究も進め、ココアの新しい可能性を追求してまいります。

引き続き体にやさしいココアの機能性についての研究を進め、随時ご報告いたしますが、様々な可能性を持つ“ココア”に、是非ご注目ください。

■表1:ココアの in vitro(試験管内)における抗インフルエンザウイルス効果

| インフルエンザウイルスの種類 | ウイルス感染を阻害するココアの濃度(※1) |
|-------------------------------|-----------------------|
| A型(H1N1: New Caledonia/20/19) | >0.20%(※2) |
| A型(H3N2: Wyoming/3/03) | 0.01% |
| B型(Shanghai/361/02) | 0.04% |

(大阪府立公衆衛生研究所)

※1: ウイルス感染を90%阻害するのに必要なココア濃度 = EC₉₀(%)

※2: 濃度0.04%の場合は、ウイルス感染を50%阻害

ココア水溶液は、in vitro(試験管内)において、通常飲用しているココアに比べて数百分の1の濃度で、インフルエンザウイルス(A型(H3N2)、B型)の感染を、90%阻害する